

科学技術・イノベーションに関する スタディグループ（SG）の進め方（案）

1. 本 SG の目的・趣旨

海洋政策を推進する上で重要な基盤となる海洋科学技術は、我が国の経済・社会の発展、自然災害や気候変動など地球規模課題への対応等に貢献するものであり、研究開発で得られた知見・技術・成果の社会実装を進めていくことが期待される。

一方で、経済社会の情勢や海洋科学技術を取り巻く環境は大きく変化しており、様々な変化を踏まえたうえで、海洋ロボティクスや海洋情報を含む先進的な科学技術を海洋の側面からとらえ、我が国の EEZ（排他的経済水域）の利用に必要となる基盤的技術として取り込む必要がある。

本研究会では、これまでの海洋科学技術に関する研究会における検討を引き継ぎ、領海・EEZ 等の利活用に資する科学技術の展開や社会啓蒙のあり方など、海洋科学技術・イノベーションの現状把握と課題の解決に向けて議論を深める。

2. 主な検討テーマ

第 3 期海洋基本計画では「新たな海洋立国への挑戦」が海洋政策の方向性として位置づけられており、特に海洋科学技術においては「未知なる海に挑む。技術を高め、海を把握する」ことが不可欠である。令和元年度の本研究会では、空間利用と海洋産業の発展の両面から、海洋科学技術について議論を深めることとする。

議論に当たっては、短期的な視点だけでなく、将来起こりうる環境の変化も踏まえる。我が国にとって重要な海洋産業の一つである水産業のほか、海洋空間を有効活用する手段であり、また、法制面の整備が進み、海洋産業としての発展が見込まれる洋上風力発電を一例として取り上げるなど、海洋産業の技術的課題について検討する。

3. 構成員

(1) 参与

- ・大和参与（主査）
- ・ほか関心を有する参与

(2) 有識者

- ・国立研究開発法人（うみそら研、JAMSTEC、水研機構、NEDO）
- ・大学（長崎大学）
- ・民間企業 等

(3) 関係府省庁

内閣府、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

4. 今後のスケジュール案

(1) 第1回 SG（令和元年10月中）【海洋科学技術の現状と課題】

- ① SGの進め方・論点整理
- ② 有識者・各省からの説明
 - ・科学技術政策（海洋分野）の方向性
 - ・現在の海洋産業における技術的課題と今後の展望
 - ・海洋産業の発展に向けた技術的課題と今後の展望
- ③ 意見交換

(2) 第2回 SG（令和元年11月 or 12月上旬）【海洋産業の発展に必要な技術開発】

- ① 有識者・各省からの説明
 - ・洋上風力発電など、海洋産業の発展に向けた技術的課題と今後の展望
- ② 意見交換

(3) 第3回 SG（令和2年1月）【今後の海洋科学技術の展開】

- ① 検討課題のとりまとめに向けた議論
 - ※1、2回の勉強会で不足のところがあれば、有識者等より報告。